

農民殺しの空港建設に 抗議の声を上げ不当逮捕された

斎藤郁真君を (文化連盟委員長・法学部) 取り戻そう



反動判決を許さないデモ（5月20日、霞ヶ関・東京高裁前）

すべての学生のみなさん！ 法政大学で原発反対を訴えてきた斎藤郁真君ら50人が、5月20日、三里塚農民の農地取り上げに反対する行動で国家権力によって不当逮捕された。絶対許せない！ ただちに取り戻そう！

●斎藤君不当逮捕を弾劾する！

5月20日、東京高裁で、成田空港建設をめぐって三里塚空港反対同盟の現地闘争本部を明け渡させる民事裁判があった。東京高裁の出した判決とは、空港反対闘争が始まって以来45年間一貫して闘争の拠点でありシンボルであった建物を、機動隊を導入して破壊・撤去して良いという仮執行宣言付きの判決であり、まさに「国策に従わ

斎藤君からのメッ セージ（5/21）

「エジプトのムバラクのように、腐敗した体制ほど暴力に頼らざるをえません。原発事故をもって見えてきたこの国の本当の姿が明らかになりつつある今、彼らにはこれしかないのです。

すでに民衆の怒りの爆発は始まっています。もはやそれは押し止められません。私は必ず戻ってきます。共に闘いましょう！」

全学連

全日本学生自治会総連合（織田陽介委員長）

Tel/Fax 050-3036-6464 mail_cn001@zengakuren.jp
<http://www.zengakuren.jp/>

ないものは国家暴力をもってつぶしてしまえば良い」というものだ。

農民と支援の労働者・学生は反動判決に怒りを爆発させ、ただちに抗議の行動に起った。これに対して、何と東京高裁と警視庁公安部は、抗議する農民・労働者・学生に襲いかかり、現場にいた50人全員を無差別逮捕した。その中には反対同盟員の農民や織田陽介・全学連委員長も含まれている。断じて許すことはできない！

弾圧自体のでたらめさと抗議の巨大さにおびえ、裁判所は翌22日夜に12人の釈放を決定した。しかし、なぜ全員の釈放ではないのか！ 不当勾留を1秒たりとも許してはならない！ 今すぐに全員取り戻そう！

●裁判所こそ原発事故の元凶だ

農民・労働者・学生を弾圧し、国家暴力で国策を守る腐りきった裁判所こそ原発事故の元凶だ。

原発建設は国策として行われ、札束とデマによって強行されてきた。電力会社の金に政治家、官僚、マスコミ、大学教授・研究者などが群がり、「原子力村」と呼ばれる腐敗と癒着が作り出されてきた。その原発に最後の承認を与える役割を果たしてきたのが裁判所だ。

原発建設をめぐる裁判で、裁判所はひたすら国策を擁護し、「安全だ」「事故は起きない」などとウソとデマを書き連ね、住民の反対運動をつぶす先頭に立ってきた。こいつらが54基もの原発を作りフクシマの悲劇を作り出した張本人ではないか！ その責任も全くとらず、今なおフクシマの農民・漁民からすべてを奪い、労働者・学生の人生も未来も破壊している同じ輩が、またしても三里塚農民から農地を奪い、国策を守ることなどどうどうして許せるか！

この国家と資本による巨大な腐敗と癒着の構造を打倒する以外に、人間社会の未来も学生の未来もない。斎藤君は、農民とともに怒り、抗議に立った。これに対する全員逮捕など、天地がひっくり返ろうが絶対に許されない！

●法大当局の「平穏な環境維持」は福島 の怒りと反原発のうねりへの襲撃だ

この光景は、法政大学で行われてきたことと全く同じだ。法大当局は原発廃止の署名を呼びかける法大生・倉岡雅美さんに無期停学処分を下した。さらに18日からは門前に「授業準備妨害」の看板が登場した。法大当局の唱える「平穏な環境の維持」とは一体何か。福島で農民が農地も何もかも奪われ、故郷を追い出され、労働者からは職が奪われ、沖縄には新たな基地が強行されるという現実のすべてを承認し一言も声を上げるなということではないか！ フクシマの怒りと原発廃止の叫びに対する襲

撃そのものだ。

法大当局は、学生がこの現実怒りの声を上げるや否や、ビデオカメラでの撮影や監視を行い、「署名はカルトだ」「マイクでの訴えは騒音だ」「授業準備の妨害だ」と襲いかかっている。金儲けにすべての心を奪われた大学当局にもはや人間の心などカケラもない。学生があつて大学があるのではなく、学生は黙って大学に従え、自分で何も考えるな、としか考えていないのだ。これは、人間の生命などどうなってもかまわないとして農民殺しや原発を押しつけてきたあり方と何ひとつ変わらない。

この状況をぶち破る力は学生にのみある。学生が、キャンパスから怒りの声を上げて「もうこんなことは許さない」と立ち上がればすべての状況は一変するのだ。

●6・5国鉄大集会ー6・11原発反対 100万人デモで力関係変えよう！

3・11がもたらした原発事故と大恐慌の現実の中で、巨大な怒りと行動へのエネルギーが充満している。だからこそ、支配者たちはすべての怒りの先頭に立ち行動する者への弾圧や処分で支配を維持しようとあがいているのだ。

だが、こんなやり方はもう通用しない。チュニジア・エジプトを見よ。弾圧で支配を維持するなどというはかない願望は、現実の前に打ち砕かれている！ 今度はこの日本で、法大キャンパスで、エジプト革命のように力関係をひっくり返してやろうじゃないか。

実践方針を訴えたい。何よりも、斎藤君たちへの不当弾圧に人間としての怒りを爆発させよう。絶対に早期奪還しよう。それと一体で、キャンパスから原発廃止の声を上げ、こんな大学のあり方を私たちの手で変えよう！

すべての力関係をかえる方針は6・5国鉄集会（13時、日比谷公会堂）ー6・11原発反対100万人デモだ。法大から大結集しよう！

《行動方針》

- (1) クラス、サークルから、キャンパスで原発反対署名を集めよう！
- (2) 国鉄闘争全国運動6・5大集会に集まろう！

新自由主義に立ち向かってきた国鉄闘争を軸に、震災解雇と闘う集会です。【13時、日比谷公会堂】

- (3) 6・11反原発全国一斉デモ

東京での方針がわかり次第、ビラでお伝えしていきます。